

I. 概要

広島市立安佐市民病院産婦人科は、広島市北部およびその近郊において、唯一の総合病院内の産婦人科である。嚴重な周産期管理や体外受精を必要とする症例を除く、すべての産婦人科疾患を取り扱っており、救急疾患はすべて受け入れている。

勤務する産婦人科医は5名で、年間分娩数は、約600件、年間手術研修は、約500件である。

II. 実習到達目標

1. 救急医療

1) 一般目標

女性特有の救急疾患の、診断、検査、治療方法を理解する。

2) 行動目標：

- (1)急性腹症を呈する産婦人科疾患（子宮外妊娠、卵巣腫瘍茎捻転、卵巣出血など）の病態を述べることができる。
- (2)急性腹症を呈する産婦人科疾患の鑑別診断を述べることができる。
- (3)急性腹症を呈する産婦人科疾患の検査計画を述べることができる。
- (4)急性腹症を呈する産婦人科疾患の治療計画を述べることができる。
- (5)切迫流産、切迫早産の病態を述べることができる。
- (6)切迫流産、切迫早産の鑑別診断を述べることができる。
- (7)切迫流産、切迫早産の検査計画を述べることができる。
- (8)切迫流産、切迫早産の治療計画を述べることができる。
- (9)常位胎盤早期剥離、前置胎盤の症状、検査所見、治療方法を述べることができる。

2. 女性医学

1) 一般目標

女性の加齢と性周期に伴うホルモン環境の変化と、それらの失調に起因する諸々の疾患に関する系統的診断と治療を理解する。

2) 行動目標：

- (1)視床下部・下垂体・卵巣系の内分泌調節系を述べることができる。
- (2)不妊症、内分泌疾患の原因を述べることができる。
- (3)不妊症患者、内分泌疾患患者に必要な検査を述べることができる。
- (4)ホルモン補充療法の方法、管理方法について述べることができる。
- (5)子宮出血止血法について述べることができる。

3.産科医療

1) 一般目標

妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を理解する。

2) 行動目標：

- (1)妊娠の検査・診断方法を述べることができる。
- (2)正常妊婦の外来管理に必要な健診方法、検査を述べることができる。
- (3)NST の評価ができる。
- (4)異常妊娠の症状、検査所見、治療方法について述べることができる。
- (5)正常分娩第1期ならびに第2期の管理方法を述べることができる。
- (6)正常頭位分娩における児の娩出機転について、述べることができる。
- (7)分娩誘発法の適応、方法、副作用について述べることができる。
- (8)産科出血に対する応急処置法が述べることができる。
- (9)帝王切開術の手術手技、術前術後管理について述べることができる。
- (10)正常産褥の管理について述べることができる。
- (11)正常新生児の管理について述べることができる。
- (12)妊産褥婦への薬物療法の特殊性を述べることができる。

4.婦人科医療

1) 一般目標

婦人科疾患の症状と、身体所見、検査所見に基づいた鑑別診断、治療を理解する。

2) 行動目標：

- (1)骨盤内の解剖を述べることができる。
- (2)腹痛、腰痛を呈する産婦人科疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、排卵痛、骨盤腹膜炎、卵巣過剰刺激症候群など）の病態を述べることができる。
- (3)腹痛、腰痛を呈する産婦人科疾患の鑑別診断を述べることができる。
- (4)婦人科悪性腫瘍の診断法を述べることができる。
- (5)婦人科悪性腫瘍の治療法を述べることができる。
- (6)婦人科悪性腫瘍の集学的治療を述べることができる。
- (7)性器の垂脱の診断、治療を述べることができる。

5.基本手技

1) 一般目標

産婦人科疾患の正確な診断と安全な治療を行うために、その基本手技を理解する。

2) 行動目標 :

(1)患者との間に良いコミュニケーションを保って、問診を行うことができる。

(2)産婦人科的診察の所見を述べることができる。

視診 (一般的視診および陰鏡診)、触診 (外診、双合診、内心、Leopold 触診法)、直腸診、
新生児の診察

(3)産婦人科臨床検査を述べることができる。

・ 内分泌不妊検査

基礎体温表の診断、頸管粘液検査、各種ホルモン検査、精液検査

・ 妊娠に関する検査

・ 感染症の検査

分泌物検査、血液検査、抗原検出法、細菌培養検査

・ 細胞診・病理組織検査

・ 内視鏡検査

コルポスコピー、腹腔鏡、子宮鏡

・ 超音波検査

ドプラー法、超音波断層法 (経腔的、経腹壁的)

・ 放射線学的検査

骨盤単純 X 線検査、骨盤計測、子宮卵管造影法、CT 検査、MRI 検査

6.医療記録

1) 一般目標

必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する。

2) 行動目標 :

(1)病歴(主訴、現病歴、月経歴、結婚、妊娠、分娩歴、家族歴、既往歴)を正確に記載し、POMR(Problem Oriented Medical Record)を作成できる。

(2)現症が正確に記載できる。

(3)検査結果が正確に記載できる。

(4)診療録を POS(Problem Oriented System)に従って記載できる。

III.研修方法

臨床実習生は、病棟においては、指導医の指導のもとに、入院患者の副担当医となり、検査、診断、治療の補佐を行う。指導医の回診に帯同し、簡単な処置の技術を取得し、カルテの記載方法を研修する。

分娩においては、分娩進行状態の評価、異常の診断について研修し、分娩介助の補佐を行う。産後は、産褥経過の評価について研修する。

手術室においては、手術体位の取り方、手洗い、消毒方法について研修し、第 2 助手として、手術の基本手技を研修し、疾患の状態について観察を行い、知識を深める。術後は、術後経過の評価について研修する。

外来においては、指導医の指導のもとに、診察の見学とともに、簡単な診療手技の施行(妊婦の計測、触診、児心音の聴取、内診)、外来検査(膣分泌物検査、超音波検査)を施行する。

救急患者の診察には、必ず参加し、指導医の指導のもとに、診察、検査、治療計画の立案に参画する。

医師、社会人として持つべき自覚、責任感について研修し、人間性の向上を目指す。

IV.研修場所及びスケジュール

研修場所

産婦人科病棟 北館 3階

産婦人科外来 南館 2階

手術室 南館 2階

集合時間

月曜日 8時00分 産婦人科病棟 カンファレンスルーム 北館 3階

火曜日 8時30分 産婦人科病棟 北館 3階

水曜日 8時30分 産婦人科病棟 北館 3階

木曜日 8時30分 産婦人科外来 南館 2階

金曜日 8時30分 産婦人科病棟 北館 3階

週間スケジュール

	8:00-8:30	8:30-9:00	9:00-15:00	15:00-16:00	16:00-17:00	17:00-17:30
月	カンファレンス 1	病棟実習	手術実習	手術実習	症例研修*	
火		病棟実習	手術実習	手術実習	症例研修*	
水		病棟実習	手術実習	手術実習	症例研修*	
木		外来実習	外来実習	カンファレンス 2	症例研修*	
金		病棟実習	病棟実習	病棟実習	症例研修*	カンファレンス 3

備考

カンファレンス 1 症例カンファレンス 先週末の入院、救急患者等のプレゼンテーションや治療方針のカンファレンスを行います。

副担当患者を設定しますので、カテから情報を収集してください。木曜日のカンファレンス 2 でプレゼンテーションしてもらった症例も設定します。

カンファレンス 2 手術カンファレンス、症例カンファレンス 翌週の手術症例のプレゼンテーションを行います。設定された症例の、主訴、現病歴、既往歴、画像、検査所見をプレゼンテーションしてもらいます。治療方針の決定に問題点がある症例のカンファレンスも行います。

カンファレンス 3 入院している患者の、経過、問題点をカンファレンスします。

症例研修* 副担当患者や、翌日の手術患者の、情報収集を行ってください。

実習中に、分娩、救急患者があった場合、そちらが優先になります。

V.指導体制

1) 主治医の明記とその役割

佐々木 充 産婦人科医師 担当患者についての直接指導

2) 上級医の明記とその役割

熊谷 正俊 産婦人科部長 担当患者についての直接指導 悪性腫瘍担当

寺本 三枝 産婦人科部長 担当患者についての直接指導 周産期管理担当

3) 統括指導医の明記とその役割

寺本 秀樹 産婦人科主任部長 担当患者についての直接指導 研修プログラムの総括

VI.研修の評価

[到達目標に、A:達した B:近い C:やや遠い D:遠い]

1)救急医療の理解

2)女性医学の理解

3)産科医療の理解

4)婦人科医療の理解

5)基本手技の理解

6)正確な医療記録の記載

7)カンファレンスでのプレゼンテーション

8)研修に臨む姿勢